

2017.1.17

平成 28 年度旭川工業高等専門学校
地元就職ワークショップ報告書



Office Yoshie

内容

1. 概要	3
2. 目的	3
3. 方法	4
4. 結果	5
I. 地元企業のメリットとして考えられること	5
II. 地元企業のデメリットとして考えられること	5
III. デメリットの中で最悪と考えられるものとその理由	6
IV. 就職者を増やすために地元企業が行うべき対策案	7
V. 就職者を増やすために高専が行うべき対策案	7
VI. 就職者を増やすために学生が行うべき対策案	7
VII. 就職者を増やすために地元自治体（旭川市など）が行うべき対策案	8
VIII. 就職者を増やすためのその他対策案	8
IX. 「就職に関するアンケート調査」の結果	9
[1] 出身地について	9
[2] 卒業後の進路をどのように考えているか	9
[3] 就職する場所について	10
[4] 就職を考える際、最も重視することについて	12
[5] 就職を考える際に欲しい情報	13
[6] 就職について相談する相手について	14
[7] 仕事に対する価値観について	14
[8] 「就職活動」「卒業後の進路」について現在感じていることについて	16
5. 結論	17
6. ファシリテーターからの所感	18
7. 学生の感想	19
参考資料	21

Figure 1	ルールと役割決め.....	4
Figure 2	ブレインストーミング	4
Figure 3	構造化.....	4
Figure 4	発表.....	4
Figure 5	最悪だと考えられるデメリットとその理由.....	6
Figure 6	受講生の出身地	9
Figure 7	卒業後の希望進路.....	9
Figure 8	将来就きたい業界や職種について	10
Figure 9	就職する場所について	11
Figure 10	将来就職したい場所について	11
Figure 11	実現すれば北海道内戻るかもしれないこと（3つまで選択可）	11
Figure 12	北海道内で就職したい理由（3つまで選択可）	12
Figure 13	就職を考える際に重視すること（3つまで選択可）	12
Figure 14	就職を考える際に欲しい情報（複数回答可）	13
Figure 15	就職について相談する相手（複数回答可）	14
Figure 16	仕事に対する価値観.....	15

1. 概要

今回、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）オール北海道雇用創出・若者定着プロジェクト」の一環として、旭川工業高等専門学校に通う 31 名の学生を対象に、地元就職に関するワークショップを開催した。ワークショップでは、各班にファシリテーターが付きブレインストーミングを用いて、学生自身が主体的に議論考察する場を設けた。そして、学生からの視点で地元企業への就職について、メリットやデメリットを浮き彫りにすることで、地元への就職者数を増やすための対策案を検討した。

メリットに関しては、家族との関係性や、現在までの知人との人間関係を継続できることでの安心感が挙がっていた。物価が安いことや実家から通勤することで支出が少なくなるため貯蓄できるなど実利的な優位点もあったが、環境変化への対応が比較的ストレスなく適応できることについて最も多くの意見が出ていた。

一方で、デメリットに関しては、給与面での不安や企業や職種の少なさ、地元に残ることでの新しい出会いや自己成長できる経験が減ることへの機会喪失が挙がっていた。中でも「給料が少ない」「業種が少ない」「世界が狭い」「企業が少ない」などを最も致命的な要因と考えていることがわかった。

そこで、考えられる対策案としては企業としては金銭面や労働面の環境を整備することに加えて、新規事業の立ち上げや積極的な情報提供を行うことなどが挙げられた。さらに、高専としては企業と学生が密に繋がりを持つ機会をつくり、相互の理解を深める援助を行うことを望む意見が多かった。そして、学生としても、自ら情報収集を行う姿勢を持つことが重要であるという視点を持つことに繋がっていた。加えて、自治体には優遇制度や企業誘致を行って欲しいなどの意見が上がるなど、一つの企業だけではなく、地元就職を推進するには、まちづくり全体を行う必要があることが改めて示唆された。また、男女の出会いの場を生むことや、自らが起業するなどの柔軟な意見もディスカッションを通してみられるようになった。

今回、学生からは、「地元就職について見直す良いきっかけとなった」「チームとして 1 つの意見にまとめる作業はとてもやりがいを感じた」などの意見がみられ、学生が就職について深く考えるきっかけとして、本ワークショップが有効であったことが分かる。

2. 目的

本ワークショップは、以下の目的に基づき実施された。

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）オール北海道雇用創出・若者定着プロジェクト」に基づき、教育カリキュラムの改革や雇用創出・若者定着に取り組むことで卒業生の地元就職率の向上を図る。その一環として、学生自身に地元企業への就職者を増加させる方法を議論検討する機会を与えるとともに、学生の考えを地元企業に届け、地元企業への就職率向上に繋げていく。

3. 方法

開催日時：平成 29 年 1 月 17 日（火）13:10～16:25（5～8 時間目）

対象者：31 名

旭川工業高等専門学校 4、5 年生（機械システム工学科、電気情報工学科、システム制御情報工学科、物質化学工学科）

進行内容：6～7 人の 5 つのグループに分かれ、学生一人ひとりの役割（リーダー、書記など）とグループ内でのルールを決めた。そして、与えられた課題に対して 10～25 分間でブレインストーミングと構造化を用いたグループディスカッションを実施し、まとめた内容を代表者が発表した。各グループには 1 名ずつファシリテーターが付き、進行がスムーズに行われるよう支援を行った。また、ディスカッションの他に学生からの忌憚のない意見を収集するために、無記名でのアンケート調査も行った。（アンケートは参考資料として添付）



Figure 1 ルールと役割決め



Figure 2 ブレインストーミング



Figure 3 構造化



Figure 4 発表

課題内容：下記を課題として提示した。

- [1] 地元企業（旭川・道内）についてのイメージ調査
 - ① 地元企業のメリットとして考えられること
 - ② 地元企業のデメリットとして考えられること
 - ③ デメリットの中で最悪と考えられるものとその理由
- [2] 地元企業（旭川・道内）への就職者を増やすための対策案検討
 - ① 地元企業が行うべき対策案
 - ② 高専が行うべき対策案
 - ③ 学生が行うべき対策案
 - ④ 地元自治体（旭川市など）が行うべき対策案
 - ⑤ その他対策案

4. 結果

I. 地元企業のメリットとして考えられること

地元企業に就職する際のメリットを学生が考察した結果、下記の意見が多く挙げられた。

- 生活環境（家族が近くにいる・住み慣れている・自然の癒し・慣れた気候、など）
- 金銭面（生活費が少なくて済む・物価が安い、など）
- 人間関係（友人が多くいる・既存のコミュニティを活かせる、など）
- 地元貢献（親しみを持ちやすい・ふるさとに恩返しができる、など）

家族との関係性や、現在までの知人との人間関係を継続できることでの安心感が挙がっていた。地元の利を活かした地域に密着した情報やインターンシップなどで、企業を深く知ることができるなど情報面での地元ならではの有利な面を見つけ出していた。物価が安いことや実家から通勤することで支出が少なくなるため貯蓄できるなど実利的な優位点もあったが、環境変化への対応が比較的ストレスなく適応できることについて最も多くの意見が出ていた。

II. 地元企業のデメリットとして考えられること

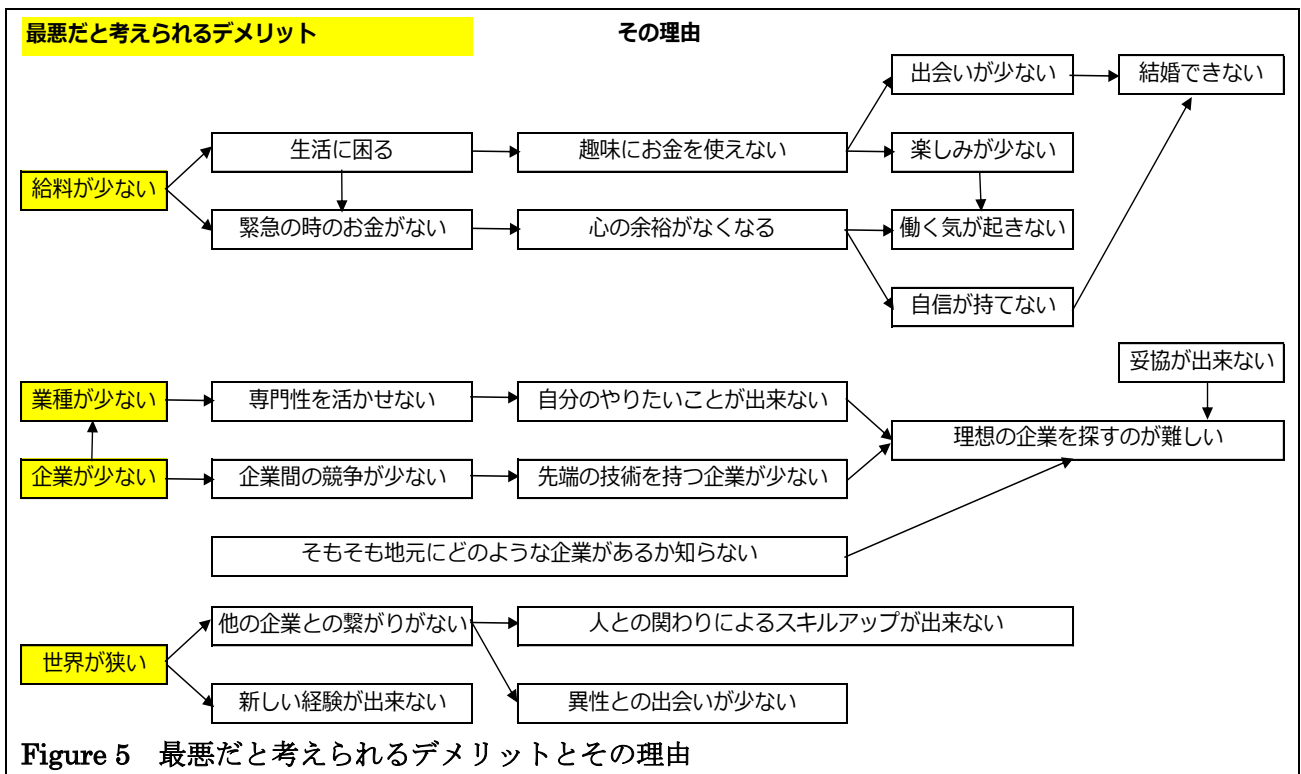
地元企業に就職する際のデメリットを学生が考察した結果、下記の意見が多く挙げられた。

- 生活環境（交通が不便・寒く雪が多い・遊ぶ場所が少ない・物流が悪い、など）
- 金銭面（給料が安い）
- 人間関係（人脈が狭くなる・自立しにくい、など）
- 経験値（新たな経験がしづらい・大きな発展がない、など）
- 仕事内容（企業が少なく希望業種や職種がない・一人の仕事の負担が多い、など）
- 将来性（中小企業しかない・倒産や縮小の可能性はある・最先端ではない、など）

給与面での不安や企業や職種の少なさ、地元に残ることで新しい出会いや自己成長できる経験が減ることへの機会喪失が挙がっていた。専門的な知識を学んでいるため、学生自身に狭い世界に身を置いているという意識があり、卒業後の自身の成長に関心が高く、自分や環境、仕事に対する期待がとても強く表れていた。

III. デメリットの中で最悪と考えられるものとその理由

デメリットの中で最悪（最も致命的である）と考えられるものを各グループで、投票制で選出した。その結果、「給料が少ない」を最悪なデメリットだと挙げたグループが 2 つ、その他に「業種が少ない」「世界が狭い」「企業が少ない」などの意見が挙がった。また、その理由について掘り下げて考察した結果、趣味を謳歌出来ないことや結婚を不安視する意見などが挙がり、プライベート面の充実を重視している声が多い一方で、金銭面よりも専門性を活かすことが出来ないことや最先端技術に触れる機会が少ないという自身の仕事面でのスキルアップが望めないことを悲観視する意見も多かった。その結果、道外の企業に就職せざるを得ないという思考に繋がっていた。



IV. 就職者を増やすために地元企業が行うべき対策案

就職者を増やすために地元企業が行うべき対策としては、下記の意見が多く挙げられた。

- 広報・PR（セミナーの開催・SNS活用・インターンシップ・求人票を早く出す・高専に出資・先生との繋がりをもつ・授業で共同開発を行う、など）
- 金銭面の環境整備（給料アップ・社宅や社員寮の設置・除雪費の支給、など）
- 労働面の環境整備（休暇制度の設置・福利厚生の改善・道外出張の機会、など）
- 専門的な事業を展開（専門分野を活かせる事業展開をする・先端技術、など）

最も多く得られた意見は、企業側から学生への情報提供が少ないという意見であった。PRや広報を積極的に行うことや、学生との早くからの関りや接点を持つことが必要であり、現在はそれが十分ではない実態を学生自身も感じていた。

V. 就職者を増やすために高専が行うべき対策案

就職者を増やすために高専が行うべき対策としては、下記の意見が多く挙げられた。

- 情報提供（道内企業の見学会・地元企業に就職した先輩からの体験談・合同説明会実施・紹介パンフレットの作成、など）
- 企業との連携（授業で企業を調べる機会を設ける・インターンで単位認定を行う・共同開発を行う、など）
- 学生の意識改革（早期からどの科目が何に役立つかなど就職に関して意識させる）

高専が行うべき対策としても、やはり情報提供を行うことが多く挙げられた。学生自身の情報収集では不十分であるように感じているようで、高専として低学年の段階から積極的な情報提供を行うことを取り入れて意識改革をして欲しいという意見も挙がっていた。また、企業との連携を強めることで、共同開発やインターンシップなどを活発に行い、体験型で企業を知る機会を設けることが、学生にとっても分かりやすく関心が高い傾向があった。

VI. 就職者を増やすために学生が行うべき対策案

学生が行うべき対策としては、下記の意見が多く挙げられた。

- 情報収集（インターンに行く・先生や先輩の体験談を聞く・説明会に参加する・企業について自ら調べる姿勢を持つ、など）
- 地元で起業する（専門的な業種や職種を自ら作る）
- 地元愛や関心を持つ（ボランティア活動に参加する・町を観察する・イベントに参加する、など）

学生が行う対策として、自ら情報収集を行うべきだという意見が多数挙がっていた。また、今回のディスカッションをきっかけに、今まであまり就職先について意識していなかった様子の学生も、自分が就職先を選ぶ時のイメージを持ち始め、情報収集の手段について具体的にイメージできたようで、就職について自分から行動する気持ちを持つきっかけになった様子であった。特に、地元企業について自分たちが何も知らないということに気づけたことが大きな一歩であった。

VII. 就職者を増やすために地元自治体（旭川市など）が行うべき対策案

- まちづくりを行う（遊ぶ場所を増やす・交通機関の拡充・ポケモン GO を活用、など）
- 金銭面の対策（税金を下げる・各種お祝い金・地元就職を支援、など）
- 優遇制度（地元企業に就職しやすくなる制度・移住者を増やす工夫、など）
- 大手企業の誘致・商業地区を造る（専門分野の企業を増やす、など）
- 情報提供（自治体主催のセミナーを行う、など）

地元自治体が行う対策としては、まちづくりを行い、人口増加を図ることや、交通機関の拡充や金銭面の対策で町全体を住みやすいように盛り上げてほしいという意見が挙がっていた。その他にも、大手企業を誘致することや商業地区を造ることで、自分たちの専門性を活かせる雇用を創出してもらえれば、人材の流出は防げるのではないかとの意見が挙がっていた。

VIII. 就職者を増やすためのその他対策案

- 地元企業を応援する（地元企業の製品を積極的に使う、など）
- 青春を謳歌する・未練を残さない
- 街中に広告スペースをつくる・ARでアピール
- 小学校の社会科見学で地元企業を訪問
- 企業同士でコンパを開催・婚活パーティーを行う
- カジノをつくる

その他の対策としては、地元企業を応援する姿勢を持つことや、広告スペースを活用するなどの意見が挙がっていた。学生の特徴として実現可能性のある対策案を考える傾向があり、捉われることなく自由に発想をすることに慣れていないようであったが、婚活パーティーを行うことやカジノをつくるなど、幅の広い意見も徐々にでてくるようになり、アイデアだしのコツを掴んでいったようであった。

IX. 「就職に関するアンケート調査」の結果

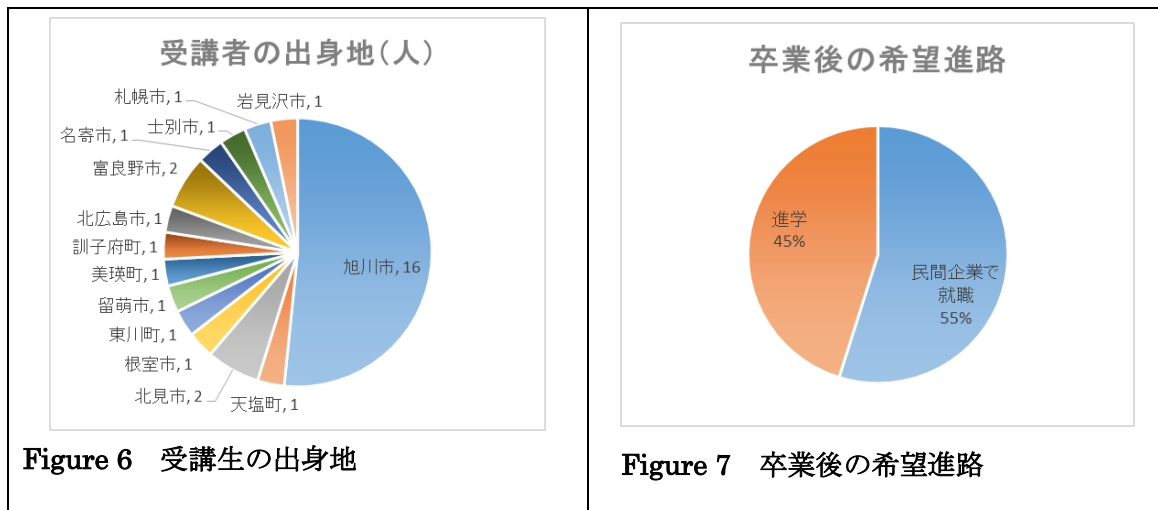
グループディスカッションとは別に、講義の冒頭で記入式により実施した「就職に関するアンケート調査」の結果は、以下の通りであった。

[1] 出身地について

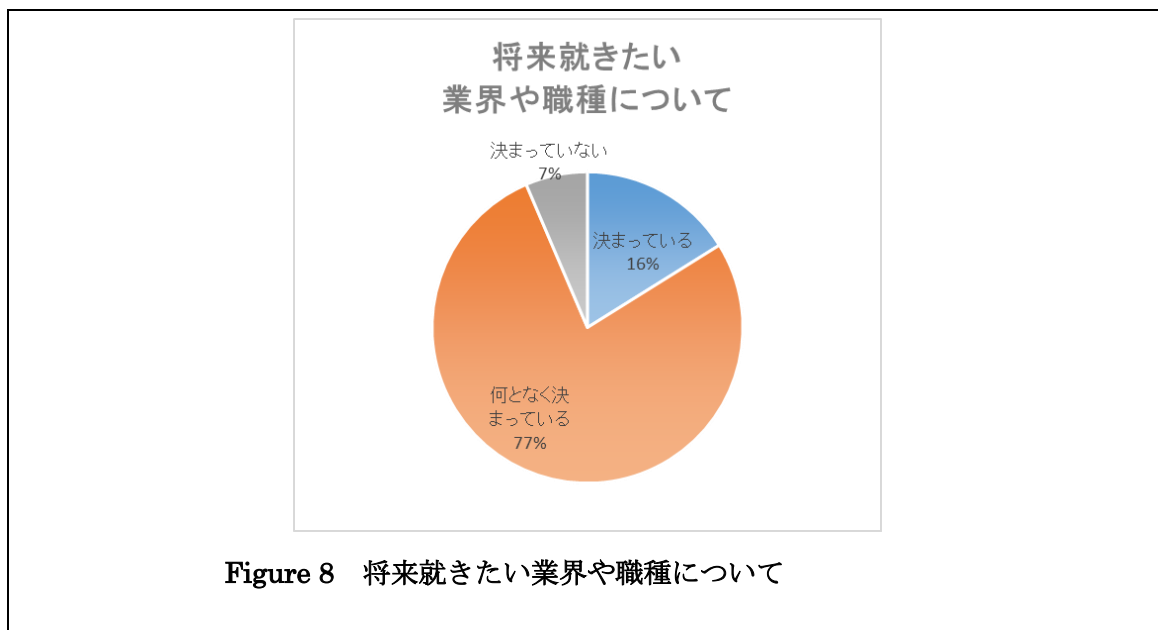
学生の出身地の内訳は、旭川市内が最も多く半数を占め、北海道外出身の学生は今回いなかった。

[2] 卒業後の進路をどのように考えているか

卒業後の進路に関しては、「民間企業への就職」を希望している学生は 17 名、「進学」を希望している学生は 14 名であった。公務員としての就職、起業や留学などのその他の選択肢を考えている学生は見られなかった。



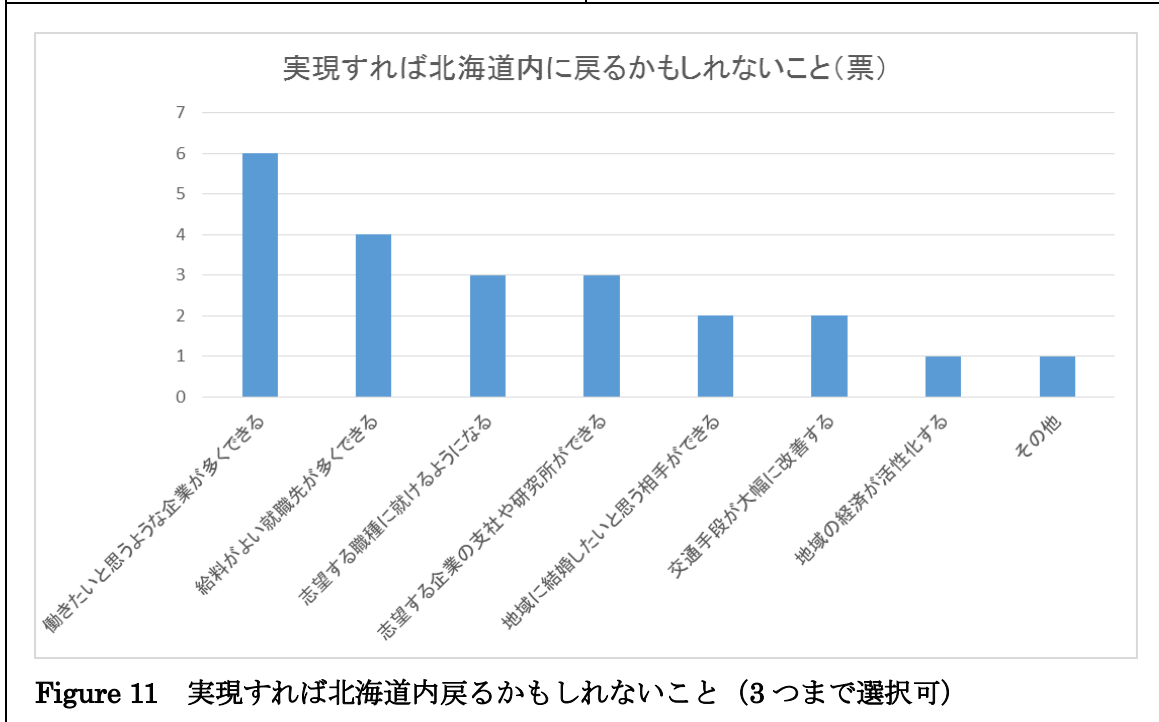
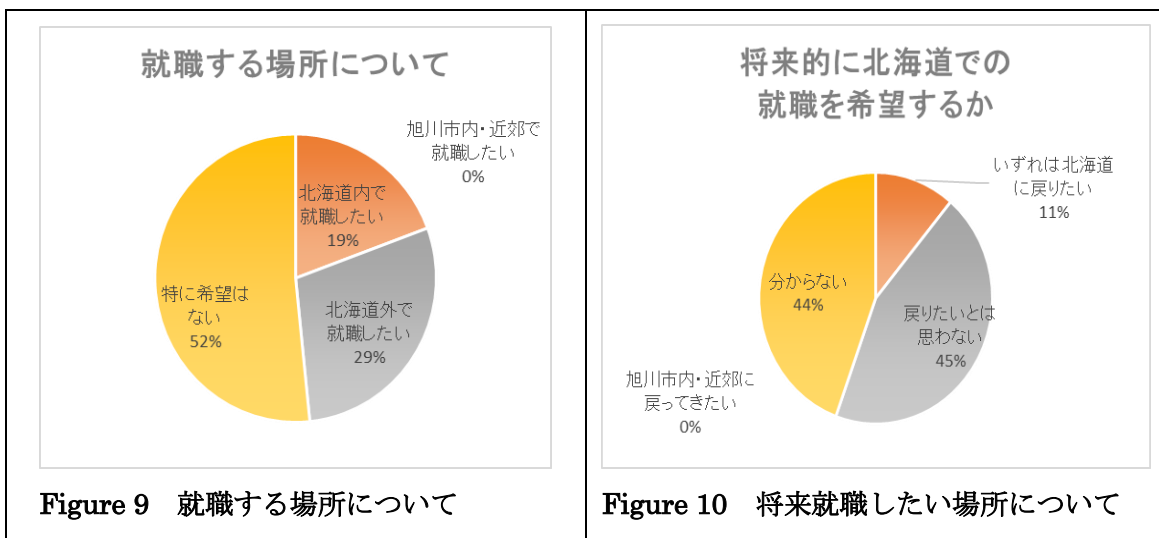
将来どのような仕事をしたいか業界や職種が決まっているかを尋ねたところ、「決まっている」と答えた学生は 5 名、「何となく決まっている」と答えた学生は 24 名と最も多く、「決まっていない」と答えた学生は 2 名であった。9 割以上の学生が、何らかの希望を持った上で今後の進路について考えていることが分かる。



[3] 就職する場所について

就職する際の場所については、「特に希望する地域はない」と答えた学生が最も多く 16 名であった。次いで、「北海道外」を希望する学生が 9 名、「北海道内」を希望する学生は 6 名であり、「旭川市内・近郊」を希望する学生はいなかった。さらに、北海道外での就職を希望する学生のうち、将来的に「北海道内に戻っての就職を希望する」と答えた学生は 1 名のみであった。「戻りたいと思わない」と答えた学生は 4 名、「分からない」と答えた学生が 4 名であった。将来的に「旭川市内・近郊を希望する」と答えた学生はいなかった。このことから、学生の地元企業への就職意欲が高くはないことが分かる。

加えて、北海道外での就職を希望する学生に、実現すれば北海道内に戻るかもしれないことを尋ねたところ、「働きたいと思うような企業が多くできる」が最も多く、次いで「給料がよい就職先が多くできる」、「志望する職種に就けるようになる」「志望する企業の支社や研究所ができる」、「地域に結婚したいと思う相手ができる」「交通手段が大幅に改善する」、「地域の経済が活性化する」「その他（もっと都会になってほしい）」が挙がっていた。



また、北海道内での就職を希望した学生のうち、その理由として最も多かったものは、「地域の生活になれているから」であり、次いで「友人が多いから」「家族の近くで生活したいから」「風土が好きだから」「仕事とプライベートを両立できそうだから」「彼（彼女）がいるから」などの理由が挙げられた。

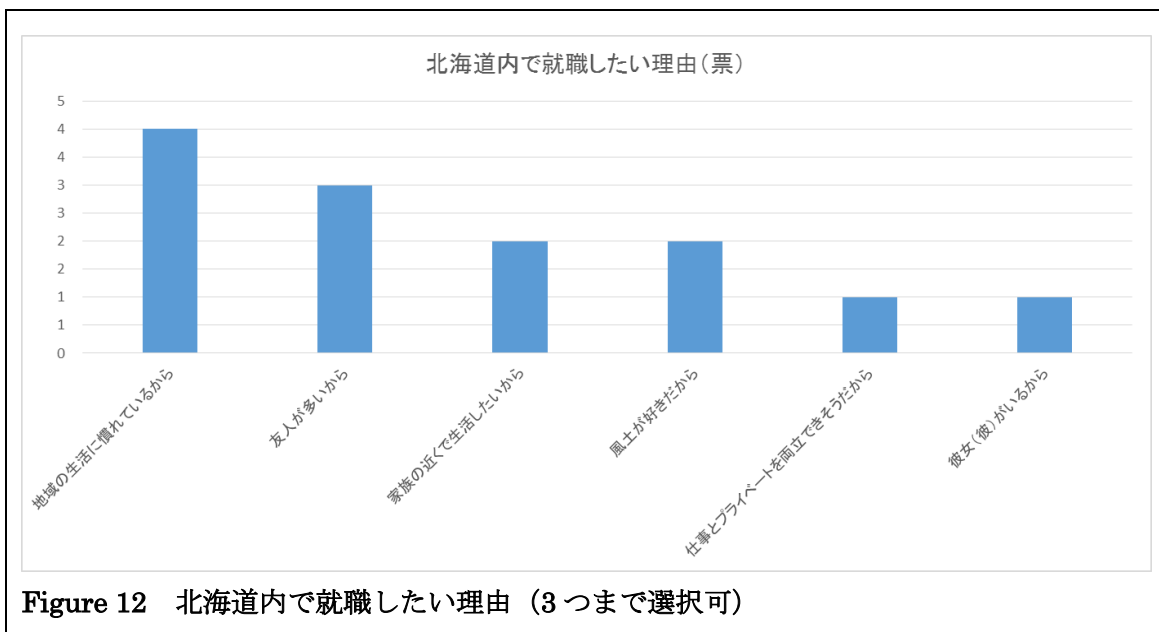


Figure 12 北海道内で就職したい理由 (3つまで選択可)

[4] 就職を考える際、最も重視することについて

就職を考える際、最も重視することは「勤務時間・休暇」が最も多く、次いで「職種」であり、この2つが有意に多かった。次に「給与水準」「安定性」「業種」「専門分野との関連性」も上位に挙がっていた。

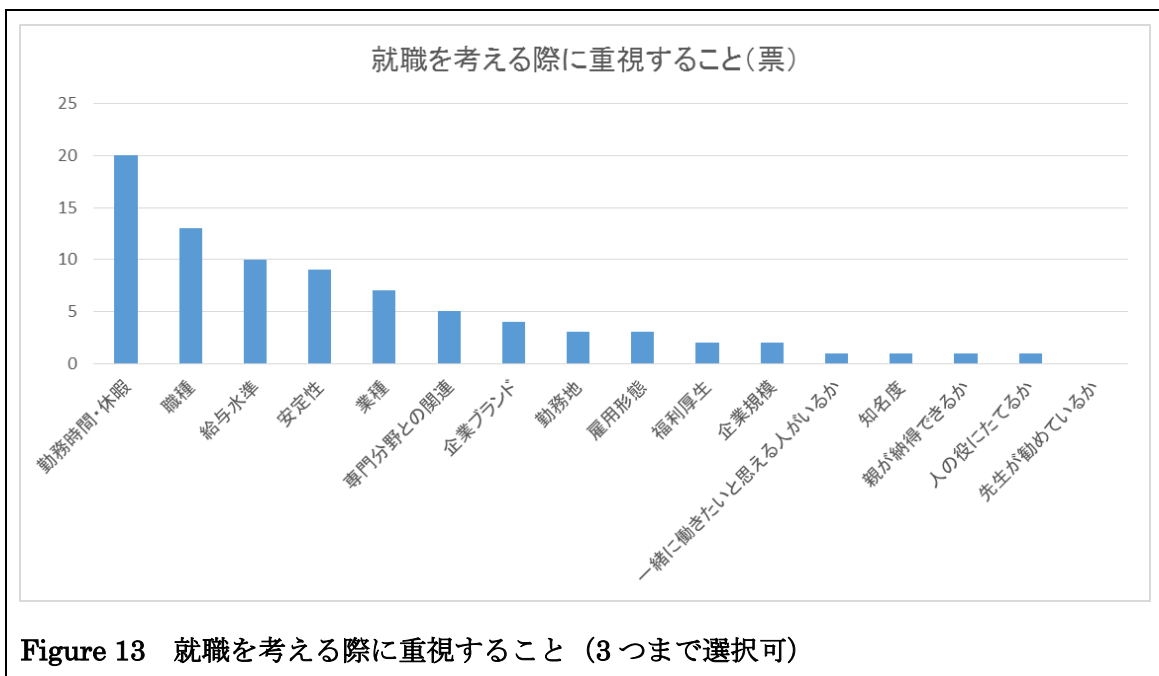


Figure 13 就職を考える際に重視すること (3つまで選択可)

[5] 就職を考える際に欲しい情報

就職を考える際に欲しい情報としては、「勤務時間、残業や休日出勤状況」「具体的な仕事内容」「休暇制度」や「社風・職場の雰囲気」が挙がっていた。これらは、就職前の段階では情報を得にくい部分であり、最も学生の立場からイメージしにくい部分でもある。実際に働く先輩社員との交流や、インターンシップなどが有効である。

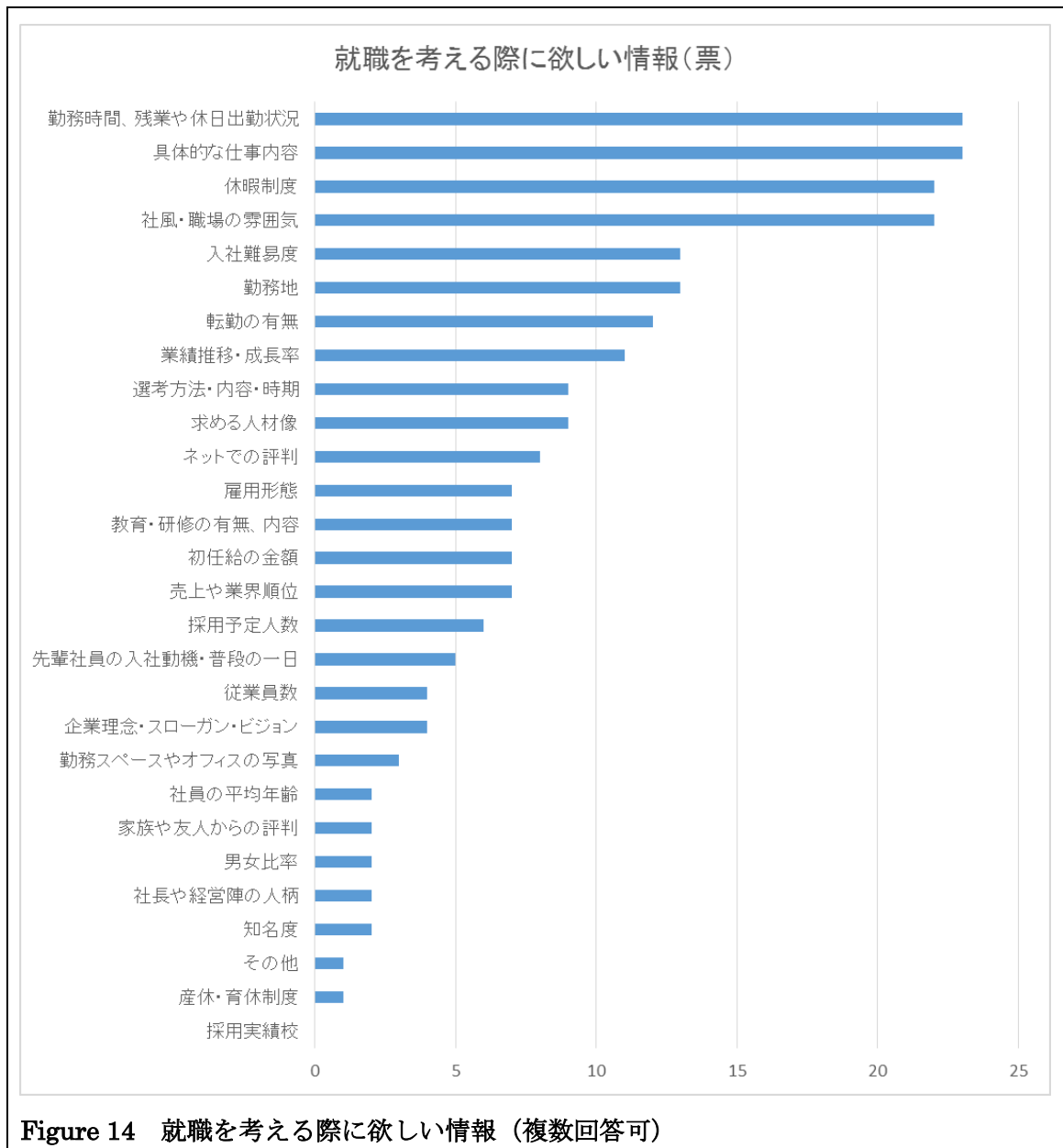


Figure 14 就職を考える際に欲しい情報 (複数回答可)

[6] 就職について相談する相手について

就職についての相談相手としては、「先生」と「親」が有意に多く、「友人」「先輩」「恋人」となった。「誰にもしない」を選択したのは1名のみであり、就職に関して先生や親の意見が大きく影響を与えることが分かる。

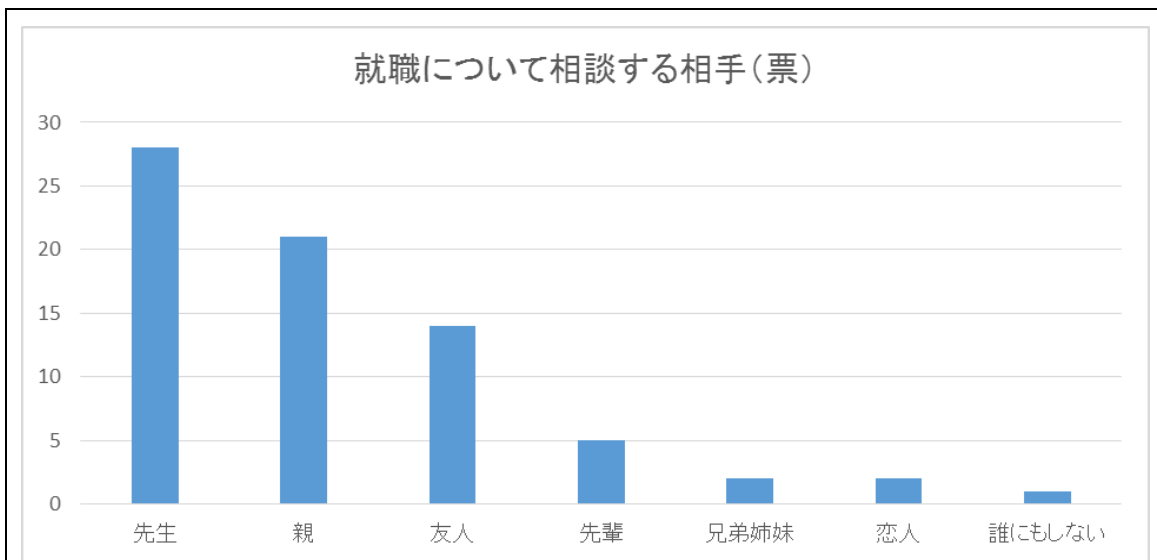
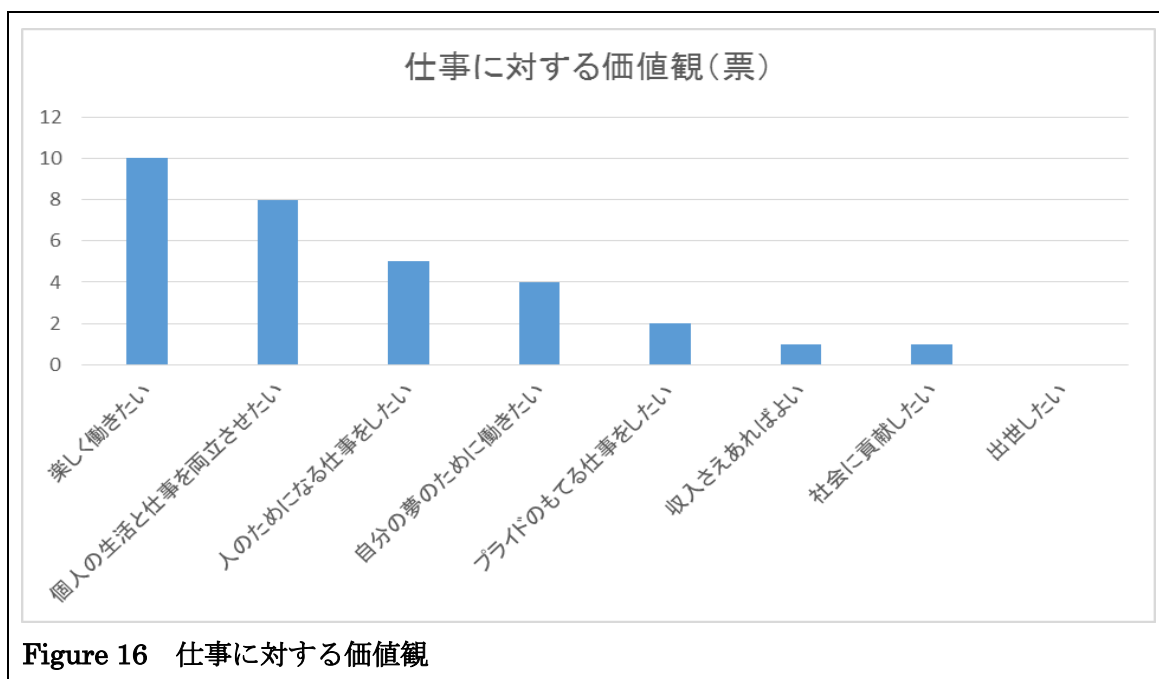


Figure 15 就職について相談する相手 (複数回答可)

[7] 仕事に対する価値観について

仕事に対する価値観に最も近いものを尋ねたところ「楽しく働きたい」「個人の生活と仕事を両立させたい」と答えた学生が多かった。次に「人のためになる仕事をしたい」「自分の夢のために働きたい」「プライドのもてる仕事をしたい」「収入さえあればよい」「社会に貢献したい」が続いた。



[8] 「就職活動」「卒業後の進路」について現在感じていることについて

自由記述にて、現在考えていることや感じていることを尋ねたところ下記のような意見が得られた。

同じ職種で企業ごとに業務内容がどう違うのか、いまいち分からない。
北海道には就職したいと思える分野の企業がとても少ない。さらに旭川となると全くないとも言えるため、旭川に残りたいという気持ちはあるものの、企業がないため諦めかけている。
宇宙開発の仕事をしたいので、そのためにまずは大学に行きたい。
どの道が自分に最も適しているのか分からない。
自分が知らないことが多い地域に行くので不安。
北海道内と道外で、就職でどちらがどう違うのかまだ分からない。
自分のことを大切にしつつ働ける環境や場所についての情報がほしい。
北海道にいたい気持ちは山々だが、魅力を感じるものがない。
実際にその企業に就くまで環境が分からないので、選択が難しい。
不透明な部分が多いと感じる。
地元の近くで働きたいが、あまり企業が無い。
企業を探すとき、どのような手段で情報を得るべきか知りたい。
北海道内に化学系の企業が少ないため、道内に就職しにくい。
面接で相手に伝えることができるか不安。
福利厚生を重視して就職先を選んでいるが、道内は優良企業が少ない。
道内には、自分が就きたい職の就職先がないので、道外での就職になると思う。
就職したい業界は決まっているが、就職活動はあまり実感がわからない。
道外に進学を考えているので、就職先も道外になると思う。

5. 結論

今回、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）オール北海道雇用創出・若者定着プロジェクト」の一環として、地元就職に関するワークショップを開催した。そして、学生の視点で地元企業への就職について、メリットやデメリットを浮き彫りにすることで、地元への就職者数を増やすための対策案を検討した。

メリットに関しては、家族との関係性や、現在までの知人との人間関係を継続できることでの安心感が挙がっていた。物価が安いことや実家から通勤することで支出が少なくなるため貯蓄できるなど実利的な優位点もあったが、環境変化への対応が比較的ストレスなく適応できることについて最も多くの意見が出ていた。このことは、アンケートでも北海道内での就職を希望した学生が、その理由として「地域の生活になれているから」「友人が多いから」「家族の近くで生活したいから」「風土が好きだから」などを挙げていたことから理解できる。

一方で、デメリットに関しては、給与面での不安や企業や職種の少なさ、地元に残ることでの新しい出会いや自己成長できる経験が減ることへの機会喪失が挙がっていた。中でも「給料が少ない」「業種が少ない」「世界が狭い」「企業が少ない」などを最も致命的な要因と考えていることがわかった。趣味を謳歌出来ないことや結婚を不安視する意見などが挙がり、プライベート面の充実を重視している声が多い一方で、金銭面よりも専門性を活かすことが出来ないことや最先端技術に触れる機会が少ないという自身の仕事面でのスキルアップが望めないことを悲観視する意見も多かった。その結果、道外の企業に就職せざるを得ないという思考に繋がっており、アンケートの自由記述欄にも就職したくても専門性を活かせる企業がないと感じていることなどが挙げられていた。また、就職を考える際に最も重視することとして「勤務時間・休暇」が最も多く、次いで「職種」であり、次に「給与水準」「安定性」「業種」「専門分野との関連性」が上位に挙がっていたことから、プライベート面の充実と自身の専門性を活かした職種や業種に就けるかが、学生の判断のポイントとなっていることが理解できた。

学生が考察した、考えられる対策案としては企業としては金銭面や労働面の環境を整備することはもちろん、新規事業の立ち上げや積極的な情報提供を行うことなどが挙げられた。加えて、高専としては企業と学生が密に繋がりを持つ機会をつくり、相互の理解を深める援助を行うことを望む意見が多かった。そして、学生としても、自ら情報収集を行う姿勢を持つことが重要であるという視点を持つことに繋がっていた。加えて、自治体には優遇制度や企業誘致を行って欲しいなどの意見が上がるなど、一つの企業だけではなく、地元就職を推進するには、まちづくり全体を行う必要があることが改めて示唆された。また、男女の出会いの場を生むことや、自らが起業するなどの柔軟な意見もディスカッションを通してみられるようになり、学生に就職について考える時間を設け、自身の意見を整理し発言する機会を生み出したことは、様々な側面から有益であったと言える。

6. ファシリテーターからの所感

今回、5名のテーブルファシリテーターが、学生のディスカッションの支援を行った。ファシリテーターからは、下記の所感が挙がっていた。

- どのような企業に就職したいか、地元か地元以外か、まだ自分ごとにはなり切れていないような印象だったが、アイデア出しの作業を進めていくうちに、「例えばこうだったら…」と、自分が就職先を選ぶ時のイメージを持ち始めた様子が見られた。終盤では、「自分たちは旭川が好きだが、地元のまちや企業の事について知っていることが少ない。よい就職活動ができるよう、自分のまちについても興味を持っていきたい」との意見がグループ内で話し合われていたことから、この話し合いの時間が、就職について自分から行動する気持ちを持つきっかけになるのではないかと感じる。
- 普段と違う場所で話し合いを行うことに不安そうな表情も見られたが、自己紹介をはじめ、役割などを決めていくうちに緊張がとけた様子だった。役割もスムーズに決まり、自分から進んで話し合いに貢献しあう姿が見られた。
- 論拠に基づいた意見の内容と、相手の考えに寄り添うような学生の皆さんの話し合いの姿は素晴らしかった。今後もこのような話し合いの仕方を活用して、役立ててほしい。
- 現段階では企業との距離が感じられる発言が多かった。高望みをしないとの意見が出たのも学生自身が将来の夢について考えたり語ったりする場が少ないことが推測された。地元企業を知ることや働く大人との関わりを増やすことで自分を見つめる機会をつくり、多様な働き方やできるだけ多く人間の価値観に触れることで未来への夢と現実のパイプを繋いでもらいたいと考える。
- テーブルファシリテーターが効果的にファシリテートすることで、話し合いが活性化され学生が生き活きと発言し話し合い発表していた。大人達が策を廻らすよりも、学生に話し合いの場を提供し学生自らが自分の力で解決の道を見出せるようにすることが貴重な経験になると考える。加えて地元企業がより学生獲得のために距離を近づけ、意識的に学生との接点を持つようにしていく必要がある。何より地元が元気であることで、働く大人が元気な姿で学生達に接する機会を創出していただきたい。
- 活発な地元でのインターンシップのみならず、例えば全国の高専での短期交換学生制度など具体的な施策を打ち自治体や地元企業を巻き込んだ全国へ向けての旭川の優位性を訴求し、学生達に高専が旭川にある意味を今一度考えていただければ幸いである。優秀な学生が流出傾向にあることは止むを得ないとしても、旭川高専での学びが誇れるものになれば、旭川への貢献をそれぞれの立場でしていくものと信じてやまない。
- 実現可能性のある対策案を考える傾向があり、捉われることなく自由に発想することに慣れていないようでした。そのためか、自分自身や高専がやるべきことについて

は発想がしやすかったようでアイデアに幅が出てくるようになりました。全体として地元企業のことを良く知らないことに気付けたようで、引き続き一縷の興味を持ち続けてくれることを期待したいと思いました。

- ディスカッションには慣れていないようでしたが、意見がわかる時は主張し合いながらも建設的に解決できるあたりはさすがだと思いました。このワークショップによって学生さんたちが地元へ興味を持ち、地元就職が選択肢の一つとなり、そしてディスカッションの楽しみに気づいていただけると幸いです。
- 学科の異なる学生とも活発な意見交換がなされており、場づくりの重要性を実感した。また、印象的だったのはグループ初めの課題である役割分担が制限時間の3分の間に全て立候補で決まり、次の議題であるグループでのルール決めに移行していたことである。最後まで参加意欲を維持し、集中力と意思を伝える力があり、考えまとめることが出来た。

7. 学生の感想

授業の最後に学生に「振り返りシート」を配布し、今回のワークショップの感想を自由に記入していただいた。いくつかを抜粋して、下記に記す。

みんなの意見を聞く中で、気づかされることが多く、今後のためになるなと思いました。また、チームとして1つの意見にまとめる作業はとてもやりがいを感じました。自分には、進行役が向いているのだと初めて思いました。また、このような機会があればと思います。
ワークショップの方々が優しく手伝っていただけて難しい内容のことでも楽しく考えることができました。就職についても考えるきっかけになり、いい時間を過ごすことが出来ました。
地元企業について深く考えることが今までなかったので良い経験になりました。
このディスカッションで出たことが少しでも改善や良い方向に向かってくれたらよいなと思った。学年全体でもこのようなことを行ってもよいと思う。
自分が要求するだけではなく、自分自身が変わる必要もあるのだと思った。
就職活動を目前まで控えているため、改めて自分の就職先などを考える良い機会になりました。
地元企業のことはあまり考えたことがなかったので、とても有意義な時間を過ごすことができました。他、ブレインストーミングなど、今後活かすことが出来るような進行だったので、とても為になった機会になりました。
地元企業について深く考えたことが無かったため、今回のワークショップは地元企業を考えるという良い機会になったと思う。他の学科の人とも協力し、発表する良い経験になったと思う。
たくさんの良い意見がでたので、ぜひそれらを採用してほしい。

自分が就職や企業に対しての関心が低いことが分かった。もっと地元に関して積極的に向き合うことが必要だと感じる。
このように高専や自治体に向けて意見を述べるができる機会があるのはとても良いと思いました。
時間を決めてやると普段より早く沢山アイデアがでた気がしました。
今回のワークショップでは思ったより意見が多く出てきて楽しく議論することが出来た。
地元の良さについて知ることが出来た。
地元企業への就職にはメリットがほとんど無いものと考えていたので、今回、時間を作って深く考えることによって、良い点悪い点をはっきりしてよかった。就職への不安は、大変多かったのですが、これからもよく考えて進路を決めたいと思う。
始まったときは「意見が出るのだろうか」という不安があったが、進んでいくとどんどん意見が出てきて自分でも驚いた。このようなことを何度もやって欲しい。
どこに就職するのか考えてもなかなか決まらず、自分だけではまとまらないことが多いが、他の人の意見をたくさん聞くことが出来てよかった。
自分の意見よりもみんなの意見のほうが、型にとらわれない自由な発想をしていて、そういった方法もあるのかと思うことが多かった。勉強になった。
最初の段階で地元企業とその他の企業で違いについてあまり関心が無く、全く分からない状態だったが、このワークショップを通し、かなり考え方や知識を得ることが出来、ためになる時間だった。
地元企業について考える機会は今まであまり無かったため、改めて地元への関心が持てた。楽しめた。また、行って欲しい。
地元企業をしっかりと調べようと思った。今回行ったディスカッションは楽しかったし、短い時間でも多くの意見がでたのは驚いた。次もやってくれると嬉しいです。
やはり自分から行動することが大切だと思った。
メリットやデメリット等のことを全く知らずにいたのに、自分は地元企業の就職を全く考えていなかった。これを機会に、自分で少し調べてみようと思います。
自分は今のところ道外へ就職する予定でいたのですが、改めて地元への就職を見直すきっかけになりました。地元就職の魅力に気づけました。

今回、学生からでた意見は、「地元就職について見直す良いきっかけとなった」「チームとして1つの意見にまとめる作業はとてもやりがいを感じた」などの前向きかつ肯定的なもののみであり、学生が就職について深く考えるきっかけとして、本ワークショップが有効であったことが分かる。

以上

参考資料

就職に関するアンケート

日付：2017 年 1 月 17 日

この度、今後より良い就職活動のサポートを行うことを目的として、アンケートを実施することになりました。つきましては、ご多忙中恐れ入りますが、以下のアンケートにお答えいただき、率直なご意見・ご要望をお聞かせください。

Q1 あなたの出身地を教えてください（市町村までご記入ください）

Q2 卒業後の進路をどのように考えていますか？（1つ選んでください）

- 民間企業に就職したい 公務員として就職したい 起業したい 進学したい
留学したい まだ志望進路を決めていない
その他（具体的に）

Q3 将来的に就職した場合、場所について希望はありますか？（1つ選んでください）

- 旭川市内・近郊で就職したい 北海道内で就職したい 北海道外で就職したい
特に希望はない

Q4 Q3 で「旭川市内・近郊で就職したい」「北海道内で就職したい」と答えた方に質問です。理由は何故ですか？（複数回答可・3つまで選んでください）

- その地域での生活に慣れているから 家族の近くで生活したいから 風土が好きだから
実家から通えて経済的に楽だから 仕事とプライベートを両立できそうだから
地域に貢献したいから 友人が多いから 志望企業があるから 都会で生活する自信がないから
親に勧められているから 彼女（彼）がいるから 転勤がなさそうだから その他（具体的に）

Q5 Q3 で「北海道外で就職したい」と答えた方に質問です。将来的に、北海道での就職を考えていますか？（1つ選んでください）

- 旭川市内・近郊に戻ってきたいと考えている 北海道内には戻ってきたいと考えている

考えていない 分からない

Q6 Q3 で「北海道外で就職したい」と答えた方に質問です。実現すれば、北海道内に戻るかもしれないものは何ですか？（複数回答可・3 つまで選んでください）

- 働きたいと思うような企業が多くできる 給料がよい就職先が多くできる
志望する職種に就けるようになる 志望する企業の支社や研究所ができる
地域の経済が活性化する 地域に結婚したいと思う相手ができる
交通手段が大幅に改善する 税金が多少免除される
その他（具体的に）

Q7 就職を考える際、最も重視することは何ですか？（複数回答可・3 つまで選んでください）

- 企業ブランド 業種 職種 勤務地 勤務時間・休暇 給与水準
雇用形態 安定性 企業規模 一緒に働きたいと思える人がいるかどうか
専攻分野との関連 知名度 先生が勧めているかどうか 親が納得できるかどうか
その他（具体的に）

Q8 就職を考える際、どのような情報が欲しいですか？（複数回答可）

- 業績推移・成長率 売上や業界順位 企業理念・スローガン・ビジョン 知名度
社風・職場の雰囲気 具体的な仕事内容 勤務時間、残業や休日出勤状況
勤務地 休暇制度 求める人材像 社長や経営陣の人柄 従業員数
初任給の金額 転勤の有無 教育・研修の有無、内容 男女比率
採用予定人数 入社難易度 雇用形態 家族や友人からの評判
ネットでの評判 社員の平均年齢 採用実績校 勤務スペースやオフィスの写真
産休・育休制度 先輩社員の入社動機・普段の一日 選考方法・内容・時期
その他（具体的に）

Q9 あなたは将来どのような仕事をしたいか業界や職種が決まっていますか？（1 つ選んでください）

- 決まっている 何となく決まっている 決まっていない

Q10 就職について、誰に相談しますか？（複数回答可）

- 親 兄弟姉妹 先生 先輩 友人 恋人 後輩 誰にもしない

その他（具体的に）

Q11 あなたの仕事に対する価値観に最も近いものはどれですか？（1つ選んでください）

- 収入さえあればよい 楽しく働きたい 自分の夢のために働きたい
 人のためになる仕事をしたい 出世したい 社会に貢献したい
 個人の生活と仕事を両立させたい プライドのもてる仕事をしたい

Q12 「就職活動」「卒業後の進路」について現在感じていることや考えていることをお書きください

ご協力ありがとうございました